

## 避難者の生活支援相次ぐ

## 山形に保育所9月開設 NPO

NPO法人国際ボランティアセンター山形（IVY）は、震災で福島県から山形市に避難している子どもを対象にした保育所を9月初旬に開設する。子連れで避難している母親が働きやすい環境を整備し、経済的な自立や社会参加を助けるのが目的だ。26日から園児の募集を始めた。

保育所は「あいびい保育園」。同市小白川町1丁目にある旧小児科医院の建物を改修し、IVYが運営する。保育士経験のある福島からの母親5人が中心となって子供の世話をする。

定員は0歳児3人、1～2歳児18人、3歳～就学前が9人。保育時間は平日午前8時～午後6時。料金は昼食代などを含み月2万3千～2万5千円（きょうだいで2人目以降は1万5千円）など一般の認可外保育所より低くした。2014年度末までの運営を計画している。

IVYによると、山形市への避難世帯は全国最多の約1400に上り、福島市や郡山市などから自主避難している母子世帯が多い。夫が暮らす福島との二重生活で経済的負担が重いうえ、山形市内の保育所は満杯で母親が働きにくい環境

だという。避難者向けの保育支援は県内で進んでいるが、一時保育にとどまっているのが現状で、フルタイム

△で預かる今回の施設は山形市では初の試みという。

8月2、22日に同市男女共同参画センターで入園説明会を開く。問い合わせはIVY事務局（023・634・9830）へ。